

愛を伝える季節

学年主任 大橋 いづみ

島 内でクリスマスイルミネーションを見かけることは少ないのですが、都内は華やかで温かな雰囲気には溢れているのではと思います。宗教的な要素を抜きにしても、この時期から新年にかけては家族を思う気持ちを大切にしたいですね。

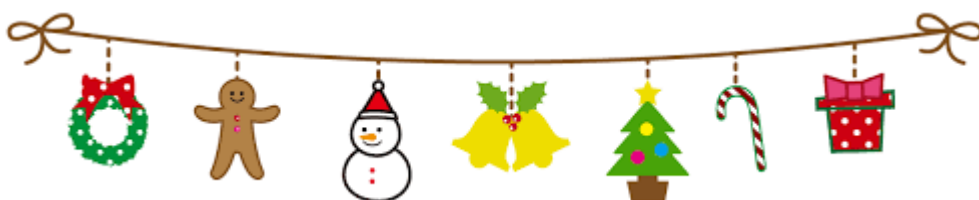
毎度たわいもない話題で恐縮ですが、海外ドラマではよく聞くのに日本語ではほとんど耳にしない言葉があります。家族同士で使う“I love you（愛してる）”や“I’m proud of you（あなたのことを誇りに思うよ）”です。後ろに相手と呼ぶ“Ma（母さん）”とか“son（息子よ）”などがしばしば添えられます。その後ハグしあうこともありますね。

私のような昭和ど真ん中世代を除いたとしてもなお、多くの日本語話者がこのようなダイレクトな表現は（夫婦間を除いて）あまり使わないのではないかと勝手ながら想像します。しかしながら日本語話者にも“I love you”や“I’m proud of you”と思う感情は存在しているし、これらの言葉がふさわしい場面（車でどこかに送ってもらった感謝、資格試験に合格したり部活で活躍したことへの気持ちなど）も日常的にあります。

ではこれらの場面で実際日本語話者が使う表現はどのようでしょうか。たとえば、保護者の皆様が高校生のお子様に、あるいは高校生諸君が保護者に「愛」や「相手を誇らしく思う気持ち」を伝えるときになんと言っているのでしょうか。通常は“I”つまり「自分」という主体の存在感を消して「すごいね、おめでとう！」とか「一緒に食べると楽しいね」「体に気をつけて」などという形で表現することが多いのではないかと思います。（英語話者はこれらの表現もちろん使います。）自分の感情を伝えるときに、思えばなんだか変化球的な表現ばかりを選択する日本語話者というのは、よほど恥ずかしがりなのかもかもしれません。

話しが遠いところまで行きましたが、そこまで考えて気づいたことは、日本語の文化や精神を捨ててダイレクトな言葉を使おうということではもちろんなくて、自分が普段離れて暮らしている親や兄弟にこれらのちょっと遠回しな言葉さえ伝えずに過ごしていることでした。（実際、私の弟はこの夏感染症をこじらせて一時集中治療室に運ばれたので、思えば半年前にもっと反省するべきでしたが。）

今この瞬間も国外のあちこちで深刻な争いが続き、愛する人と遠く離れたり愛する人を失った人々が多くいる現実に胸が痛みつつも、温かい部屋で家族愛溢れるドラマを見て実に庶民的な涙を流している、そんな自分にできるささやかな平和の営みとしてそのようなことを思った年の瀬です。



最初で最後の乗船実習

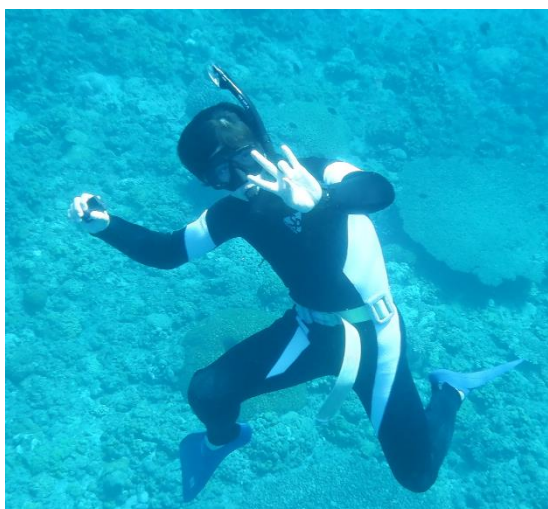
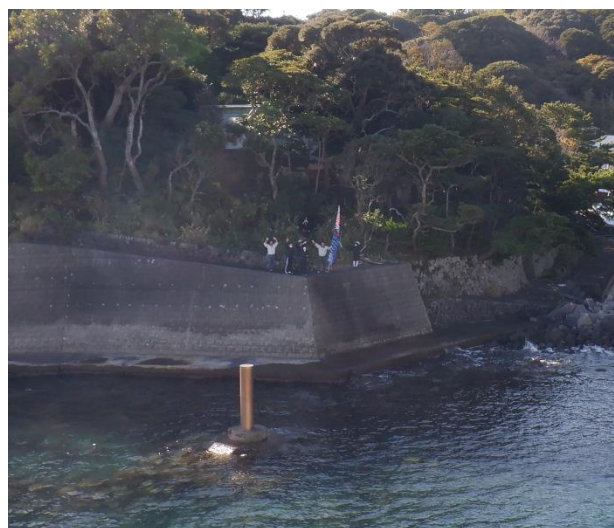
A組担任 大井 健一郎

11月22日より12月4日までB組産業系の乗船実習が行われ、担任団の引率教員として同行しました。普段の学校生活や、寄宿舍での生活では見ることのできない生徒の様子を見たいと思い、さまざまな調整の末、引率することができました。

今回の実習は14日間の予定で、静岡の清水港、小笠原の二見港での停泊をしながら、養殖施設や水産センター見学、さらには航海途中での底釣り実習など、内容の濃い実習を行っていました。生物系の生徒ということもあり、それぞれの見学場所で見られる生き物たちに目をキラキラさせて夢中になっている姿が記憶に残っています。また、実習の一環で行ったダイビングでは、小笠原の大自然の中、他の地域では見られない貴重な生物や自然を目の当たりにしました。個人的にも初めてのダイビングを経験しましたが、澄んだ海やその海面すれすれまで広がる珊瑚礁、そしてそこにいる生き物たちに終始圧倒されたことを覚えています。

本校は水産科の高校としてさまざまな特色ある教育活動を行っていますが、その中でも乗船実習は他の都立高校では経験することのできないものだと思います。今回、この貴重な乗船引率という経験をすることができ、生徒たちが普段寄宿舍で行っている清掃活動や食事当番、点呼などの多くが実際の船内生活に活かされていることを知ることができました。また、生徒たちの多くが経験してきた、「船酔い」というものもしっかりと体験しました。最後になりますが、この乗船引率の際にお世話になった船員さんを始め、学校での業務をお任せした先生方、そして担任不在の中しっかりと生活してくれた生徒たちに感謝をしたいと思います。この経験を活かし、今後の生徒指導に活かしていきたいと思います。

(下は乗船実習の写真です。)



出船の精神

B組担任 小原 隆哉

1 年間の中で、帰舎から帰省までの期間が最も長い 11・12 月が終了しました。生徒の皆さん、ひとまずお疲れ様でした。昨年度この時期は、積もるストレスからか？生徒間で争いがあったり、問題行動で指導があったり、正直結構大変でした。今年度は大きな問題もなく、乗船実習や集中実習にしっかり取り組み知識や技術を蓄えることができました。周りの先生方に「最近クラスの雰囲気が良いね。」と褒めてもらえることもありました。君たちの成長を感じられて、担任として誇らしい気持ちでいっぱいです。これからも元気に頑張っていきましょう！

さて、君たちの成長の一助になればと思い、次の教訓を紹介します。

艦船が港にある場合、舳先（へさき：船首）を港口に向けている状態を出船（でふね）と言い、いざ出港というときには直ちに出港することができます。逆に艫（とも：船尾）を港口に向けている状態を入船（いりふね）と言い、岸壁を離れた後いったん方向変換をする必要があります。時間的な余裕があるときはいいのですが、緊急の場合にはそれだけ時間を無駄にすることとなります。これは他の事柄についても言えることです。（海上自衛隊幹部候補生 HP より）

机やロッカーに 1 年次の教科書や不要なプリントが溜まっていませんか？授業の課題を後回しにしていますか？進路に向けて志望理由書を書かなきゃと思いつつ書かずじまいになっていませんか？何事も後回しにするとあとで困るのは君たち自身です。（内容によっては担当教員や保護者の方に迷惑をかける場合もありますが。）何が起ころうとも余裕を持てるよう、冬休みにやるべきことを済ませてから年明けの学校生活を迎えることを強く望みます。

冬休み明けに皆さんの元気な顔を見ることを楽しみにしています。事故や怪我に気をつけて過ごしてください。それではよいお年を！！

以下はお知らせ

2年B組 2学期 数学（II・A）の評定について

数学Ⅱ・Aに関して、今回の緊急帰省の影響で授業内に行う予定だった考査が1月に延期になりました。その関係で今回2学期の成績表に記載されている評定は2学期の内容が全く含まれないものとなっております。（1学期の数値が載っています）2学期に学習した内容に関しては、1月の帰省明けに行う授業内考査をもとに算出した評価を学年末に加算する予定ですので、ご承知おきください。

何か不明点などありましたら、学年団（担当：大井）までご連絡いただければ幸いです。

大学入学共通テスト模試を実施します

2月4日（日）に上記模擬試験を希望者を対象に実施します。国公立大学志望生徒は是非受験してください。校内の申込締切は1月9日（火）です。17期生にとっては最初の共通テスト模試となります。マークセンス式です。日程が今回も厳しく、この模試を受けると週末が休み無しとなります。（3日（土）が授業日のため。）受験科目数を絞るなど、各自無理ない範囲で申し込んでください。

なお、3年次は共通テスト模試（マークセンス）・記述模試ともに年3回実施予定です。

自宅で感染症になった時は欠席届をご提出ください

帰省中の寄宿舍生と島生に関するお願いですが、感染症により欠席する・帰省が遅れる、といった際には、後日「感染症欠席届」を保護者をご記入の上提出ください。本校ホームページの「災害時対応・各種届出→感染症による出席停止について」から該当のファイル（様式）をダウンロードできます。新型コロナ、インフルエンザ以外の感染症についても同ファイル内のリストにてご確認ください。

3年次の選択科目を決定します

今回配布物の中に「第3学年における選択科目希望調査（保護者確認）」があります。最終のお知らせですのでご家庭で確認の上、新学期開始時に提出してください。

【今後の予定】

1月8日（月・祝）	一斉帰舎
1月9日（火）	始業式、避難訓練（噴火）
1月14日（日）	英検一次
1月20日（土）	AM 三送会、PM 学習発表会、一斉帰省（3年）
1月24日（水）	AM 実力テスト、PM 一斉帰省
1月29日（月）	一斉帰舎

【帰省明けの提出物及び連絡事項】

① 教務	第3学年における選択科目希望調査（保護者確認）	1月9日締切 全員
② 体育科	マラソン大会について（参加確認書）	同上
③ 保健部	冬季休業中の健康状況調査	同上
④ 保健部	マラソン前健診健康調査票	同上
⑤ 海洋実習船部	令和5年度鯨類調査への参加について（探究系希望者）	1月9日締切

